

【開催報告】

2022年9月5日に、日本学術会議公開シンポジウム「那須地域から考える20年後の日本社会ー共領域におけるイノベーション創出と地方創生」を開催しました。話題提供では、ナスコンバレーで展開されているイノベーション創出・地方創生の取り組みをナスコンバレー協議会の八木澤様、井上様、留目様にご発表頂き、若手アカデミーからは、イノベーションに向けた社会連携分科会の木村委員、地域活性化に向けた社会連携分科会の小野委員が、イノベーション人材育成における人材多様性の重要性、イノベーション創出と地方創生の関係性についてそれぞれ話題提供を行いました。パネルディスカッションでは、地域活性化に向けた社会連携分科会の寺田委員のファシリテーションのもと、日本放送協会の柿沼様をお招きして、イノベーション創出と地方創生の関係性について、話題提供者の皆様と意見交換を行いました。

終了後に行ったアンケートでは、「事業者と学者の異なる視点から話が聞けて良かった」、「多様な人材やインタープレナー（越境人材）の重要性がよく分かった」などの感想が得られました。また、もっと掘り下げてほしい内容として、「地方活性化において熱意ある個人を資金面やしがらみ打破といった点からサポートする体制」や「一般の方々を実証実験にいかにか巻き込むか」などが挙げられた。さらに、「今回のシンポを単発で終わらせるのではなく、取り組みを継続的に参加者で確認共有」することの大切さが指摘されました。



シンポジウム終了後の集合写真。若手アカデミーメンバー、ナスコンバレー協議会の八木澤様、井上様、留目様と日本放送協会の柿沼様

（報告者：高瀬堅吉・イノベーションに向けた社会連携分科会委員長／中央大学）